

8月19日、清水大使は Altra 社（旧：国有企業イグナリナ原子力発電所）を訪問し、パウゼス CEO との意見交換を行うとともに、施設内の視察を実施いたしました。

## **1 厳重な安全管理の下での施設視察**

視察は、着衣の完全な着替え、放射線量計の装着、退出時の厳格な放射能チェックなど、安全性が極めて厳重に確保された状態で行われました。施設内では、実際に以下のエリアを視察しました。

- ・原子炉施設内および原子炉ホール
- ・水中作業・使用済燃料管理エリア
- ・原子炉制御室（現在も稼働中）
- ・旧タービン建屋

## **2 イグナリナ原発の歴史と廃炉の進捗**

当発電所は最大出力 3 ギガワット（2 機）を誇り、かつてはリトアニアの電力総需要の半分以上を賄うとともに、水力発電所の夜間揚水用電力も供給していました。EU 加盟の条件として廃炉が決定され、1 号機は 2004 年、2 号機は 2009 年に運転を停止。現在は 2049 年の完全廃炉完了を目標に作業が進められています。

## **3 難易度の高い原子炉コア解体と日本への期待**

現在、廃炉の最重要工程である「原子炉コア解体の実施業者」を選定する国際入札が進行中であり、2027 年に結果が公表される予定です。対象が特殊な旧ソ連製原子炉であるため、価格以上に「実績と経験」が最重視されています。原子炉コアの解体は高濃度の放射線下で行われるため、全工程が遠隔作業となります。先方からは日本の高い技術力と経験が非常に高く評価されており、日本企業の積極的な参加が歓迎されています。

## **4 新たなエネルギー戦略**

リトアニア政府は 2028 年までに新たな原子力発電導入の是非を決定する方針です。既に GE Vernova（GE 日立）と覚書を締結しており、小型モジュール炉（SMR）「BWRX-300」を有力候補の一つとして検討するなど、次世代のエネルギー転換に向けた動きも着実に進展しています。

## **5 お問い合わせ**

同社の詳細については下記のウェブサイトをご参照ください。

<https://altra.lt/en/>

本件に関し、同社とのビジネス連携や入札にご関心のある日本企業の皆様は、当館経済班（economy@vn.mofa.go.jp）までお気軽にお問い合わせください。

画像 1 : 旧原子力発電所前にて、清水大使とパウジース CEO



画像 2 : 原子炉ホールにて

